

あいさつ

エコチル調査福島ユニットセンター
センター長 橋本 浩一

第一目標にたどり着いたエコチル調査 ～さらなる大きな果実のために～

日頃はエコチル調査にご理解、ご協力を賜り有難うございます。

平成 23 年 1 月に開始されましたエコチル調査は 13 年目に入りました。最年長の子どもたちは、当初の研究計画における目標の 12 歳にたどり着き始めました。この 12 年は開始時には予想できない 12 年間でした。開始間もなく東日本大震災に見舞われ、保護者の方々は悩み、不安を抱えながら妊娠、出産、そして育児をされ、さらに最近では新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックのなかでの子どもの見守りとなりました。こうした大変な状況であります。福島ユニットセンター（UC）では出生数の約 93%にあたる 11,930 人が継続参加されており、また年 2 回の質問票はこれまで通算 218,698 通を発送し、175,795 通ご回答いただき、全体として返送率 80.4%と高水準が保持されています（令和 5 年 3 月現在）。改めまして、保護者の方々、子どもたち、そして関係者の皆さまに感謝申し上げます。ここに令和 4 年度のエコチル調査福島 UC の活動状況を報告いたします。

“主役の子どもたちの成長に合わせた様々な取り組み”

令和 4 年度も昨年度に引き続き、COVID-19 への対応に追われました。一方で主役の子どもたちにエコチル調査への関心をさらに持っていただくため、彼らの成長に合わせた様々な取り組みをオンラインで実施しました。県内の高校生の協力により作成した実験動画を夏休み期間中に配信しました。また、福島県文化財センター白河館“まほろん”のご協力のもと勾玉作りに挑戦し、完成した勾玉の写真を参加者からお送りいただきニュースレターに掲載しました。さらに環境問題を“親子で一緒に学び合う”機会として「海洋ごみと海の生物について」と題してアクアマリンふくしまの先生による双方向のセミナーも開催しました。

“寄せられたデータの共有－集計データ小冊子－”

以前、質問票への回答内容のうち、特に保護者の方々の関心が高いと思われる項目について、4 歳までの福島県の子どもの状況をもとめました。令和 4 年度は、県内の教育機関関連の方々へのアンケート結果を参考に項目を選定し、7 歳までの状況をもとめた小冊子を作成しました。本リーフレットにより、現在の福島県の子どもの生活の様子、そして取り巻く環境の一部を垣間見ることができます。

“成果の発信”

調査、研究である本出生コホート調査の目的は、確かなエビデンスを社会に還元することです。全国 10 万組の母子からのビッグデータによりエコチル調査関連の論文が数多く執筆されています。福島 UC では令和 4 年度は学術ワーキンググループのメンバーが 16 通（英文累計 48 通）の英語論文を発表しました。当 UC を含めエコチル調査からの発表論文は当 UC、あるいは環境省のホームページからご覧いただけます。

“ これからのエコチル調査 ”

「健康と環境に関する疫学調査検討会」の報告書が令和3年度末に公表され、13歳以降40歳程度まで調査を続けることの必要性が提言されました。これを受けて、環境省では令和4年度に当初の13歳までのエコチル調査基本計画の改定が進められました。13歳以降の参加継続は児の意思が尊重されることとなり、これまで以上に子どもたちの本調査へのご理解、ご協力が重要となります。

最年長の子どもたちが当初のエコチル調査の目標である12歳にたどり着きましたが、将来への通過点となることが決定されました。13歳以降の本調査への参加継続の意思の確認を子どもたちにすることから始まります。意思の確認には本調査開始時以来の大きなエネルギーを要することになりますが、本調査から得られる果実がより大きくなることが期待されます。今後とも、関係者の皆さまの御理解と御協力のもと参加者とともに一步一步あゆみ続けて行きたいと存じます。よろしくお願いいたします。

令和5年6月